

過去30年間で最も重要な1曲 (パッケージ音楽とライブ音楽)

2018/1/27

真田一宏

パッケージ音楽とライブ音楽を分けて 考えました。

- 「鶏が先か、卵が先か」という視点において、「パッケージが先か、ライブ音楽が先か」という視点でどうしても1つにまとめることができない。
 - パッケージはこの30年間で急激に変化を遂げた一方、ライブ音楽はライブカルチャー、ディスクカルチャーを問わず、“その場”において音が鳴っている“1回性”は変わることがなかった。
- 音源は後者をかけます。

パッケージ音楽

- Le Mystère de Voix Bulgares (Vol.2)1988



英米の産業音楽の飽和

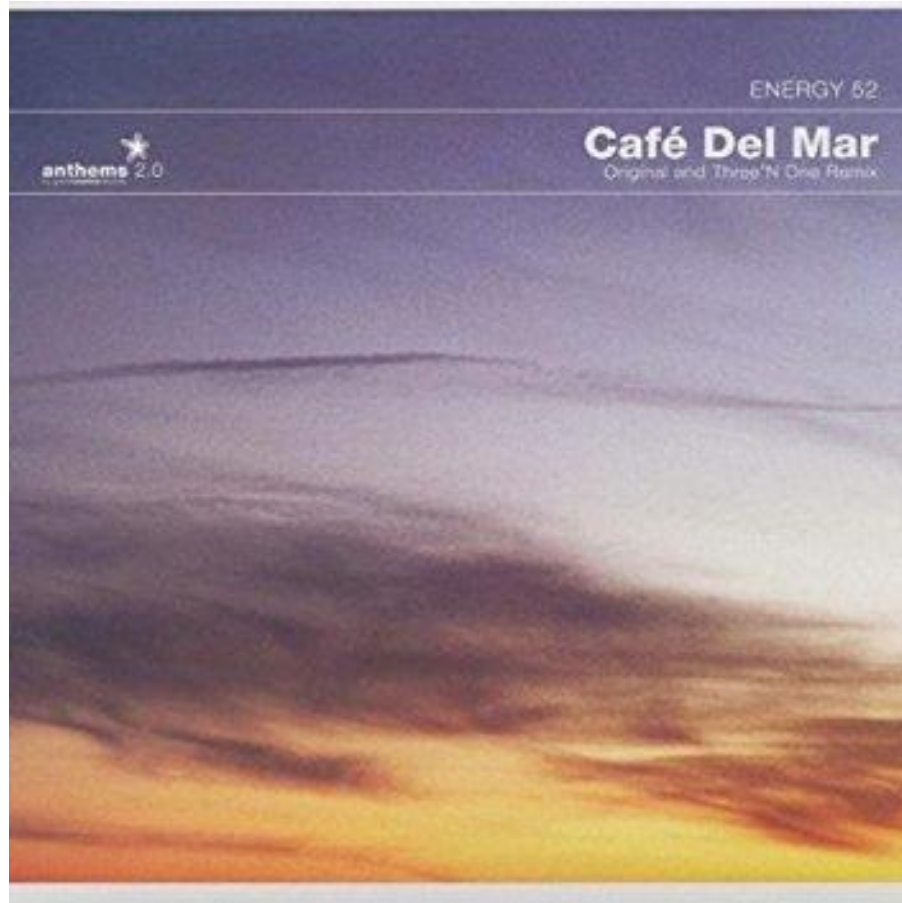
→ワールドミュージックの発見

民族音楽をそのままパッケージ化しても野暮ったさが残っていてはダメ。民族音楽をポップミュージックとして洗練することで既存の産業音楽を超える作品が登場した。その意味でこの合唱運動(アマチュアを巻き込んだ合唱)の指導者、Philip Koutevは20世紀指折りのプロデューサー。

ライブ音楽

- テクノ・ハウスの台頭

(代表曲 : Energy 52/Café Del Mar/1993)



クラブカルチャーは60年代からあったが、ディスクッシュなライブ音楽としてあらたな社会現象レベルに達したのはManchester時代(いわゆるsecond summer of love)から。ムーブメントはヒッピームーブメント時代から観光ナイトライフで栄えた地中海のイビザ島に飛び火、Café Del Marが生まれる。現在もEDMの発信地的存在。